

「全鍍連」 2020年 5月号 巻頭言

全鍍連 環境委員長 清川 肇(清川メッキ工業(株) 代表取締役社長)

「努力は無限」

新型コロナウイルスの感染拡大は、日本だけでなく世界経済全体に深刻な影響を及ぼしています。経済のグローバルの中で海外生産や物流の停滞、更には、人材交流の停止などによる企業経営への影響、また、学校の一斉休校、各種イベントの中止などの自粛活動をもたらすなど、多くの問題が生じてきています。新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）を受け、世界大恐慌の恐れまで出てきています。

不景気の時にこそ会社一丸となった「努力」が必要となります。しかし、最近、努力という言葉が使われることが減ってきたと思います。モーレツ社員の昭和時代とは違い「働き方改革」が推奨され、「どうすればもっと効率よく結果を出せるのか？」といった風潮が「結果が出ないことをやっても意味がない」「うまくいかなかったらやるだけ損」といった方向性に向っています。「やるだけ損」と切り捨て、結局何もやらない事は問題です。ちょっと面倒だな、やりたくないなということの中にこそ、誰もやったことのない新しい手法や気づかなかった事実が隠されているものです。他人と同じ事をしていただけでは前に進めません。自分の頭で考え、試行錯誤を繰り返す努力が必要となります。「努力は無限」です。限りがないのです。今こそ、努力し続ける強い気持ちを持ってこの難局を乗り切ることが大切なのではないのでしょうか。

我々の仕事は、お客様の製品をお預かりし、めっきしてお返りするめっき加工業であります。殆どのめっき会社は自社商品がなく、お客様からお仕事を得ています。過去の不景気の時には、お客様が内製化したり、生産拠点を海外に移していきました。それを食い止めるためにも「誰もやったことのない新しい手法」で新しい仕事を日本で生み出してほしいと願います。

令和二年
清川 肇



努力は無限